

学校名 南種子町立西野小学校

項 目	活動内容等
1 活動内容等	<p>西野小学校は、長年にわたりPTAと連携を図り、海がめの保護活動と関連付け、海岸清掃等の美化活動を推進してきた。</p> <p>継続した活動を通して、児童に自然環境を守ることの大切さを体感させ、環境美化に関する児童の意識を高めている。</p>
2 活動状況等 (1) 活動の動機・頻度 ① 活動を始めた動機 及び開始年月 ② 活動の愛称名が あれば記入して下 さい	<p>西野小学校では、種子島の自然に親しみ、生き物の命を大切にすることを目的として、ウミガメの孵化・放流活動を行っている。</p> <p>そこで、ウミガメが産卵のために上陸する前之浜海岸の自然を守ることを考えて、前之浜海岸の清掃活動に取り組んでいる。</p> <p>PTA活動の一環として、年に一回親子での清掃活動に取り組んでおり、今回で20年目を迎えた。</p> <p>親子ふれあい活動「前之浜海岸清掃」</p>
③ 月間又は年間活動回数	年1回(5月)

項 目	活動内容等
④ 活動のエリア	前之浜海岸付近
⑤ 活動1回当たりの平均参加者数	約60人
⑥ 活動1回当たりの平均時間	約2時間
⑦ 収集物の処理	分別し，リサイクル及び可燃処分
(2) 活動の独創性 活動の特徴	ウミガメが産卵のために上陸する前之浜海岸の清掃を行う。子供たちに海洋保護という広い視野をもたせる活動。
(3) 地域への貢献度 ① 地域の環境美化への貢献	地域住民や観光客などが訪れる前之浜の景観を保つことに貢献している。
② 地域住民との協力活動	<p>本活動にあたっては，町役場の協力を得て，回収物の処理等の対応を確立している。また，ウミガメの孵化・放流活動に関しては，ウミガメ保護監視員の方の御指導，御協力をいただいている。</p> <p>現在のところ，本活動において地域住民と直接的な連携はとっていないので，今後検討していきたい。</p>
③ 児童・生徒の活動に対する地域住民の反応	子供たちの活動に対しては理解を示し，学校評議員会等で肯定的な意見をもらうことができている。

項 目	活動内容等
(4) 環境教育との関連 ① 環境教育と活動との結びつき	前之浜海岸の清掃活動をとおして、環境保全や海洋保護への意識付けができた。SDGsとの関連も図ることができた。
② 活動開始後の児童・生徒の美化意識の変化	活動に対して、大変意欲的に取り組む姿が見られた。校内や地域の清掃活動においても、進んで活動に取り組んでいる。分別など、ごみ問題に関する意識の高まりも見られた。
③ 当該活動以外の環境教育実践活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な清掃活動 ・ 5・6年生総合的な学習の時間テーマ「環境」
(5) 当該活動で他の表彰を受けたことがありますか	なし
(6) 校内外活動のための時間の作り方	PTA活動として実施
3 その他特記事項	特になし

環境美化教育活動報告書

南種子町立西野小学校


1 活動

前之浜海岸清掃（本校校区内）

2 目的

本校では、ウミガメの孵化活動を行っている。ウミガメの産卵地であり、孵化した子ガメの放流場所でもある前之浜海岸を観察・清掃することで、ウミガメが生息できる環境の保全に努める。また、本活動を通して、校区の海洋環境保全の理解を深めると共に、主体的に美化活動に取り組む児童の育成を図る。

3 活動の位置付け

	内容	実施日	詳細
1	ウミガメの卵の孵化準備	5/23	<p>ウミガメ保護監視員の本東孝治さんに、ウミガメの卵を届けていただいた。その卵を、校内に設置した卵の孵化場に、子供たち一人一人が埋めていった。実際に卵に触れることで、子供たちのウミガメに対する愛着が高まった。</p> 
2	ウミガメの観察	5/24 ～	<p>子供たちがローテーションを組んで、卵の孵化場の温度測定を行っている。砂の積算温度を測ることで孵化のおおよその見通しをもつとともに、孵化場に異常がないか全員で確認をしている。</p>
3	保護員による講話 (隔年 令和4年度実施)	5～6 月	<p>本町におけるウミガメ保護員の協力の下、ウミガメの生態や必要な環境保全、放流活動の意義について体験を交えた講話を実施し、清掃活動から環境保全活動へ児童の意識が高まるきっかけの一手として講話を設定している。</p>
4	前之浜海岸清掃	5/27	<p>P T A 親子ふれあい活動として実施。 詳細については後述。</p>
5	ウミガメの放流	8月 (予定)	<p>卵が孵化次第、前之浜海岸での放流を行う。子供たちは、自分たちが清掃した海岸を子ガメが歩く姿を見ることで、環境保全への意識がさらに高まることが期待される。</p>

4 活動の実際

(1) 日 時 令和5年5月27日(土) 午前8時～午前10時

(2) 場 所 前之浜海岸(本校校区)

(3) 参加者 児童, 保護者, 職員

(4) 実際の流れ

ア 事前の活動

平成15年から始まった本活動は、現在PTA活動の一環として取り組んでいる。そのため、準備に当たっては、PTA運営委員会が中心となり、企画・運営を行っている。

4月の運営委員会を皮切りに、町役場との連絡調整や役割分担など、主体的に行っている。

イ 清掃活動の内容

まず、PTA会長が子供たちに活動の目的や作業内容の説明を行った。また、校長からも話をするので、取組の歴史と環境教育の一環であるという意識付けを行った。

説明後、作業を開始した。



【PTA会長の話の様子】



【校長の話の様子】

海に注ぐ河口に向けてごみを拾っていった。拾い残しがないよう、「ローラー作戦」で作業を行った。



【子供の活動を後方でサポートする保護者】



【異学年の子供にも声かけをしながら活動】

親子や友達どうして協力してごみ拾いを行った。今回は、拾ったごみの後処分のことを考慮し、清掃センターで引き取ってもらえる缶・びん・ペットボトル等のごみを中心に回収を行った。



【初参加となる山村留学生親子の様子】



【産卵に上陸したウミガメの足跡を確認】

河口をゴール地点とし、拾ったごみの砂などの汚れを落とすことで、リサイクルセンターで回収できるようにした。中学年から高学年を中心に、積極的に作業に取り組んでいる。



【ゴミを洗う活動の様子】



大量のごみを拾い、活動の目的を達成することができた。集めたごみは、種類ごとに分別を行った。



【活動を終えての集合写真】



【分別したゴミの一部】

5 活動と関連した学習

(1) SDGs

子供たちは、社会科や理科など多くの場面で「SDGs」について学習する。この13の開発目標が自分たちの生活と結び付いていることを意識付けるために、諸活動の価値付けを行っている。

全校児童のふれあいの場である「交流ホール」に「SDGsコーナー」を設置することで、子供たちが自分たちの活動とSDGsとの関連付けを視覚的に行えるようにしている。



(2) 5・6年総合的な学習の時間

総合的な学習の時間のテーマは隔年で変わるが、5・6年生の今年度は「環境」を大きなテーマとしている。

5月の海岸清掃の後、子供たちから「(処分できないため)拾わなかったごみはどうすればよいのか。」という疑問が出された。その疑問を今後の学習へつなげるため、与論で「拾い箱」の活動をしている池田龍介さんに連絡を取り、リモートによる授業を行っていただいた。

子供たちは、池田さんの活動を参考に、前之浜海岸で同じような活動ができないか検討し、池田さんと同じ拾い箱の取組を行うこととした。熊毛支庁をとおして設置の許可をいただき、1学期の終わりに前之浜海岸に設置をした。今後も県庁や町役場など関係機関と連携を取りながら、環境保護の学習を進めていく予定である。



【5・6年生の子供たちが前之浜に設置した拾い箱】

(3) その他

昨年度はウミガメ保護監視員の本東孝治さんを講師として、ウミガメの生態に関する学習を実施した。活動に関する子供たちの視点を「地域の清掃」という身近なものから「海洋の保護」という大きなものに広げることができた。この学習は隔年での実施を考慮しており、来年度実施をする予定である。



【ウミガメ保護監視員本東さんによるウミガメの学習（令和4年6月11日）】

6 まとめ

海岸清掃は、今回で20回目という節目の年を迎えた。昨年度のウミガメ保護監視員の本東さんによる授業、今年度の5・6年生の学習などとおして、海岸清掃を単発的な行事ではなく、環境教育の一環として子供たちに意識付けすることができた。



【孵化場から子ガメが出てくる様子】



【放流前の子ガメの様子】



【令和4年度のウミガメ放流会の様子（令和4年8月6日）】

子ガメがより安全に海へ帰っていけるように、18時30分から実施した。子供たちは子ガメが海に向かって歩く姿を見て、声援を送るとともに、自分たちの行った海岸清掃の意義を感じることができた。